

The background features several large, organic, rounded shapes in blue, green, and orange. Overlaid on these are network diagrams consisting of circles connected by thin lines. One circle is at the top left, another at the bottom left, and a cluster of three circles is on the right side.

株式会社あしたの寺子屋 2022's Annual Report

- 01 あしたの寺子屋とは
- 02 寺子屋パートナー事業
- 03 越境プログラム事業
- 04 ネットワーキング事業
- 05 チーム体制・パートナー
- 06 2023年度のあしたの寺子屋

あしたの寺子屋とは

Vision

世界を拡げる一歩目を、どこからでも。

Mission 2023

パートナーとともに、一人でも多くの子どもたちに世界を拡げる一歩目を届けきる。

あしたの寺子屋とは

Value 2023

- **少し良い「あした」にこだわろう。**

- これまでのあらゆる当たり前や慣習を超えて、今日から最も近い未来（「あした」）を少しでも良くするこだわりを持って仕事をしよう。僕らが誇りをもって生んだ小さな少しの変化が、地域の中で大きなうねりになる未来を信じ、関わり続けよう。

- **現場で成果を生み続けよう。**

- 遠くから綺麗なことを偉そうに叫ぶ存在ではなく、成果を誠実に着実に現場で生み出す存在でいよう。地域やパートナーのもとに足を運んだり、会話をしたり、思いを馳せることを忘れないようにしよう。お互いの現場をリスペクトしよう。

- **できることをスピード感もってやりきろう。できないことも、ちょっとがんばろう。**

- 役職・経歴・年齢にこだわることなく、それぞれが個性・特性を最大限生かしながら、スピード感をもって仕事にとりかかろう。できないことをできないと表明して頼りあえる信頼関係を、チームで構築しよう。

- **判断し、振り返ろう。**

- なんとなく続けるのではなく、目標と期限を共有し、仮説を検証し続けよう。未成功の状態を楽しみ、結果に対してチームで常に振り返る時間を大事にしよう。振り返るためには、時に勇気をもって相手の専門分野にも踏み込もう。

- **多彩なチームを組もう。**

- 大きな変化を起こすには、僕らはまだまだ力不足。社外も含めた多彩なメンバーでチームを組み、世界を拓ける一步目を生み続けよう。チームで仕事を続けるための資金を稼ぎ、それぞれが望む環境で働き続けられる努力を続けよう。

事業の全体像

寺子屋パートナー事業

過疎地域で、
放課後に全国と繋がる
学童・塾を複業型で立ち上げ、
全国をネットワーキング

越境プログラム事業

過疎地域の生徒と都市部の
生徒・大学生・社会人で交流・
学習をするプログラムを運営
(長期休暇・学校の授業)

ネットワーキング事業

当社の事業で出会った生徒・大学生や、パートナーの関わる生徒たちを
ネットワーキングし、イベントやコンテストなどの更なる挑戦機会を提供

寺子屋パートナー事業



あしたの寺子屋

カフェ、ゲストハウスなどの複業で、学童や塾の代替となる学び場を全国16拠点で運営。各寺子屋では独自のカリキュラムを地域と連携して構築。地元では会いにくい多様な同世代・先輩とオンラインで出会えるネットワークを提供しています。

寺子屋

生徒数

16 拠点 100 人

開校している寺子屋一覧

協働・立ち上げ

- ALOP SCHOOL : 北海道美幌町
- ALOP Academy : 北海道網走市
- 名称未定 : 北海道小清水町
- やくもの寺子屋 : 北海道八雲町
- ミライ・ベース (仮) : 北海道上川町
- 学びどき : 青森県南部町
- 自学自炊コミュニティalba : 京都府京都市
- irodori Study Lab : 福岡県広川町
- ラントアカデミー : 熊本県大津町
- あまみ学び舎 : 鹿児島県奄美市

パートナー

- NPO法人E-LINK : 北海道札幌市
- シーラクス株式会社 : 北海道札幌市
- 無人島スクールAKITA : 秋田県横手市
- MORIUMIUS : 宮城県石巻市
- 陽向舎 : 神奈川県藤沢市
- 学習塾まなび島 : 鹿児島県与論町



地域のお祭りでの企画と接客の体験学習



他拠点の生徒とオンラインで作曲活動



寺子屋運営者と事務局の定期的な1on1サポート



オンラインでオセロ4段の先輩と対戦してみる



地域の事業者と連携した宿泊型事業を共同企画



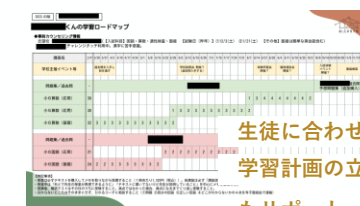
月に一度、全国寺子屋合同のオンライン授業



メタバースで生徒同士が自由に話せる環境



生徒に合わせた学習計画の立案もサポート



※ 各寺子屋で活用しているPCの一部は、北海道IT推進協会からの寄附PCを活用しています。(合計37台)

生徒の声

- 作曲のワークショップで宮崎県に友達が出来た。今度行ってみたいです！(福岡 小5男子)
- オンラインで大学受験をサポートしてもらい、無事志望校に合格出来ました。ありがとうございます！(鹿児島 高卒女子)

保護者の声

- ランキング企画をきっかけに熱心にタイピング練習に取り組むようになった。本人の成功体験になって自信をつけたように見えます。(福岡県 小2男子保護者)
- 現地のスタッフの方はもちろん、オンラインでも色んな先生方が子どものことを知って、気にかけてくれることが嬉しいです。(青森県 小3女子 保護者)

03 越境プログラム事業

あしてらキャンプ

大学生と社会人が地域に出張し、地元の中高生に3-10日間で提供する長期休暇のスクール事業です。学習支援・大学生との対話・世界を広げる様々なワークショップの3つのコンテンツを組み合わせて提供します。

開催拠点 **8** 町村
 生徒数 **300** 人



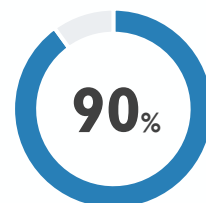
開催した地域一覧

- 北海道上士幌町 (全2回)
- 北海道比布町
- 北海道南幌町
- 北海道上川町 (全2回)
- 北海道月形町 (試験版)
- 北海道美幌町
- 北海道八雲町
- 福岡県広川町

大学生スタッフの所属大学

20 人

- 秋田大学
- 小樽商科大学
- 関西外語大学
- 九州大学
- 近畿大学
- 熊本学園大学
- 慶應義塾大学
- 上智大学
- 専修大学
- 筑波大学
- 東京大学
- 東北大学
- 名寄市立大学
- ニューヨーク市立大学
- 藤女子大学
- ブラウン大学
- 北海道学園大学
- 北海道科学大学
- 北海道教育大学 岩見沢校
- 北海道教育大学 札幌校
- 北海道大学
- 琉球大学
- 早稲田大学



また来たい！と答えた生徒の割合

- 生徒** 「自分の好きなことに挑戦できるような環境に勤めるように頑張ったほうがいい」ということを言われたのが思い出に残っています。頭の端で何度もリピートされるような大切な言葉をもらったと思いました。
- 保護者** 町内の大人と話すだけでは知ることのできないことを知れる場だと思います。子どもの「世界が広がった」「可能性が広がった」と感じています。
- 教委** こうして一人一人に真剣に向き合ってもらえる経験はなかなかなく、その出会いをつくることが生徒の大きな自信になったのではないかと思います。



採択された助成金等

- 認定NPO法人北海道NPOファンド 休眠預金事業：地方における学習・能力向上機会の拡充による選択格差の解消～小中を通じた「なりたい自分」の選択視野を広げる地域教育
- Local Innovation Challenge HOKKAIDO 2021

03 越境プログラム事業

シャッフルキャンプ

居住地・年齢・考え方などの異なる多様な他者との交わり
 (=シャッフル)を通じて、「物事への好奇心や他者に対する
 関心」「自分に対する理解」を日常に持ち帰る宿泊型の長期休暇
 スクール事業です。

開催拠点

生徒数

3 町村

36人

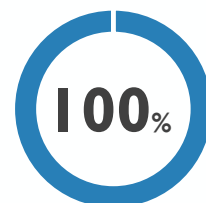
開催した地域一覧

- 北海道美幌町
- 青森県南部町
- 鹿児島県与論町

寺子屋パートナー事業にて現地の
 大人や生徒と関係がある地域で実施

プログラムのコア要素

- ① 越境による様々なシャッフル
 : 年齢や背景などの異なる多様な人々、その暮らしとの関わり (シャッフル) を体験
- ② 「誰か」のことを考えたアウトプット
 : ただ楽しむのではなく、「誰か」に思いを馳せるアウトプットを制作
- ③ 教育に携わる現地コーディネーター
 : 地域で教育事業を営み、地域の魅力を知り尽くす現地コーディネーターが運営



また来たい！と答えた
 生徒の割合

生徒

行く前は、友達ができるかとか飛行機にひとりで乗れるかとか、不安なことが
 多かった。でも、1日目友達になって、新しい友達とはじめての場所でやっ
 たことないことができてとても楽しかった。4日目はほんとうに帰りたくない
 と思いました…！

保護者

行きと帰りの子どもたちの顔つきも全く違い、本当にたくさんの経験が出来た
 のだな、と感じ、涙が止まりません。



採択された助成金等

- 内閣府「令和4年度関係人口創出・拡大のための中間支援組織の提案型モデル事業」

03 越境プログラム事業

あしてらワーケーション

まなび
関係企業

1 社

まなび
関係人口

15 人

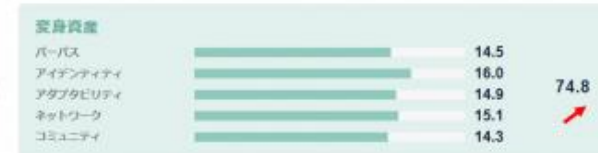
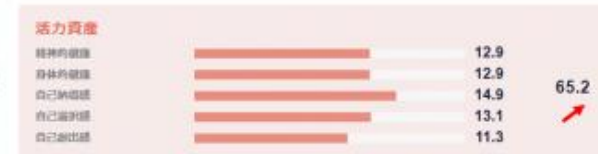
開催した地域・企業

- 地域：上土幌町 にっぽうの家
- 企業：パーソルプロセス&テクノロジー株式会社

参加者イメージ・開催背景

- 参加者は、コロナ禍で社内コミュニケーションを十分にとることができていなかったといった課題も抱える社会人1~3年目が半数。
- 従来の「普段の業務を遠隔で行う」ワーケーションではなく、現地のはたらく人々との対話や学生らとのワークショップを通じて、社員のキャリア自律形成にどう影響を及ぼすのか、その有効性について検証することを目的に、実証実験として開催された。

都市部の民間企業の社員が、地域に実際に足を運び、社会が地域と関わりながら自らのキャリアを棚下すことに加え、地元の中高生と一緒に働き方を考える時間を作ることで、研修要素も盛り込んだ教育×ワーケーション事業です。



参加者の声

- ワーケーションを単なる社員のリフレッシュ機会に留めず、現地の方との積極的な交流やコーディネーターとの対話の機会を設けることによって、自身の強み・弱みの再評価や越境経験の本業還元を意識することができました。ワーケーションについては今までイメージされていた『出張』『合宿』『休暇』など漠然としたイメージから、キャリア資産の可視化によって、より具体的な社員の成長機会にアップデートが図られたと実感しています。



03 越境プログラム事業

学校向けプログラム：上士幌高校



北海道上士幌町の夏休み・冬休みの期間における「まなびの広場」事業の延長で、高校の授業でも講座を実施。オンライン・オフラインを活用し、1人の講師・7人のメンターで少人数対応型のプレゼンテーション力を養う授業を実施しました。（2021年度・2022年度に実施）

まなび
関係人口

生徒数

8人 52人

開催背景

- 上士幌町にて実施していた「まなびの広場」事業（当社事業名：あしてらキャンプ）のさらなる認知拡大や事業の発展に向けて、町内の上士幌高校との連携強化に関する提案が、町教委より挙げられた。
- 上記に対応するべく、上士幌高校の高校2年生の総合的な探究の時間のカリキュラム内で、「プレゼンテーション力」や「コミュニケーション力」の育成につながる授業案の提案を行うことになった。

実施したプログラム

- 2022年度は、「私にとってのニュース」を調べて、まとめ、プレゼンテーションする全8回の巡業を実施。初回の2時間は導入として現地での実施、残りの6回はすべてオンラインにて実施した。
- 導入に向けた現地での授業は、NewsPicks Educationと共同実施。当社メンバーとNewsPicks Educationが現地授業を実施した。



なぜプレゼンを学ぶのか？を最初に説明



身近なテーマでニュースを体感する授業を実施



みんなと一緒に授業をつくるバイセンたち(株式会社あしたの寺子屋)

- しゃちよー
 - すみかさん
 - みくさん
 - ちゃんやま
 - まやさん
 - びよてい
- 町外の多彩な大人が高校生のメンターに



NEWSの概要

オーダーメイドの着ぐるみを制作している会社、株式会社キグルミックスさんがエア着ぐるみの半分を透明で作成し動画を投稿。Twitterでは中の人の動きが見えて面白い・わかりやすいと注目を集めた。オーダーメイド着ぐるみの打ち合わせ時に内部の構造や中の人の姿勢・視線を説明するために、透明な体で作られたそうだ。



自分にとってのニュースとそれをみて感じたことをそれぞれがプレゼン

生徒の声

- 普段はニュースを見ないが、今回の授業をきっかけに報道に対して興味を持てるようになりました。
- ニュースの見方について、改めて見直して深く考えてみようと思うことができた。自分と向き合うことができたのと、他の人とのコミュニケーションの時間が取れた有意義な時間でした。

教員の声

- 生徒が活動している様子を、普段とは異なる形で見るのが良かったです。
- いつも会う教員とは違う大人と交流することができるのは貴重な機会。普段の座学の授業とは異なり、常に実践が隣り合わせで展開される授業も新鮮でよかったです。

03 越境プログラム事業

学校向けプログラム：ミライカナイ



沖縄県うるま市からの受託事業*。『職業を知る・体験する』という職業の選択肢を拡げるだけでなく、子供たちが『わたしは選択できる存在である』ことを自認できるようになることを目指すプログラムを企画・運営しました。

学校数

生徒数

19校 2,227人

中学校向けプログラム

12校・1,499人

- 働くこと、そして仕事に就く際に大切になることは「自分について考え、それを表現すること」と設定。従来のインプット中心の内容ではなく、他者の目に触れるアウトプットを作成するプロセスを通して自分の内面と向き合うことを目指す。



地元の多彩な人々がメンターに



自分らしい肩書を考え、名刺をデザインする



実際に名刺を渡してみる

生徒

- この小さい紙の肩書だけで興味を持ってくれる事があると知って文章で自分のことが伝わるってすごいと思いました。
- 社会人に対するイメージが変わった。名刺はあんまり見たことがなくて、渡し方とかあるのが意外でした。

教員

印象付ける肩書を考えるという内容が面白かったです。また分かりやすい内容と説明で、子どもたちが取り組みやすかったと思います。みんな顔をあげてしっかり聞いて実践していました。講師の方が子どもたちにたくさん声掛けをしてアドバイスしてくれていたのが生徒は嬉しそうでした。

高校向けプログラム

7校・728人

- これまでの「職業」を軸としたキャリア教育から、リアリティのある「職種」を意識した内容へと切り替え、「働く」という未来をより自分ごと化できている状態を目指す。
- 様々な職種及びその内容を知ることで、どんな「仕事」も社会にとって大切な営みであると感じ、働くことに対してワクワク感を醸成。また、単に職種を知るだけにとどまらず、「自分が向いている職種はどんなものか」「自分の好きを活かせる職種はなにがあるのか」など、自分と職業をつなげるきっかけをつくり、より自分に立脚した進路選択が可能になる素地をつくった。



社会で働く大人の話聞いてみる



コンビニのおにぎりを題材にサブライフェンを想像し、学ぶ



カードゲームでコンビニ会社の経営戦略を立てる

生徒

- 社会にはたくさんの仕事があって、自分が向いてる職種をゲームを通して知ることができました。この経験を、自分の得意なことが何かを明確にして、大学の進路選択や、学部選択に役立てたいです。
- ひとつの事に注目して、周りの仕事とか後ろで働いている人の事も分かって理解出来たので良かったです！ありがとうございました！

教員

- 新しい試みでよかった。新しい情報も得られてよかった。職員からは、ちがう視点からのアプローチがあり勉強になったと声をかけられました。
- 参加した生徒全員が主体的に参加していた。とても工夫された内容で、生徒の気づきを大切にしながら要点を押さえた活動になっていたと思う。

*本事業は、AUOコンソーシアム（株式会社うむさんラボ / 株式会社ワンスペース / 株式会社あしたの寺子屋）にて受託し、rakoya for tomorrow, inc 中高校生に対するワークショップの企画・運営サポートを当社にて実施しております。

04 ネットワーキング事業

イベント甲子園

全国の高校生を対象にした「イベント」の企画コンテストです。
優勝チーム・準優勝チームは、それぞれ100万円・50万円
の活動支援金と企業からの伴走を受けながら、自分たちが
心から実現したかったイベントのアイデアを実現します。

参加町村数

参加生徒数

20 チーム 100 人

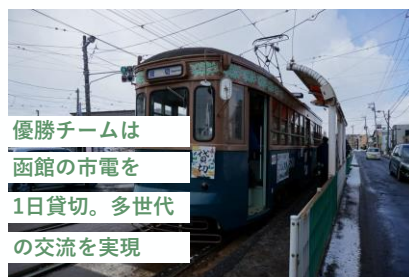


開催背景

- 教育事業会社である当社と非教育会社との協働を通じ、課題の発見（テーマの設定）から企画実現までの一連の流れを高校生主体で行うプログラムを実施することで、心のエンジンを駆動させることを目指す。
- 協賛や後援といったプログラムをバックアップする役割ではなく、非教育会社が事業実施主体として教育事業会社との協働を行うことに独自性があり、通常の教育課程では体験できないコンフォートゾーンから抜け出す「越境体験」を創出。

実施したプログラム

- 第三者を惹きつけられるイベントを個人または団体が企画してエントリー。最終審査を通過した上位2チームは、プロによる伴走サポート（月1回程度の企画・実施コンサルティング、人脈紹介など）と活動支援金を活用して、2023年1月以降のイベント実施を目指す。



採択された助成金等

- 三菱みらい育成財団 教育事業者等が行うより先進的、特徴的、効果的な「心のエンジンを駆動させるプログラム」2022年度カテゴリー2

04 ネットワーキング事業

Picture Of 171Q



全国から多様な分野の大学生が集まり、様々なインプットとアウトプットのプロセスを通じて、自分たちにとっての理想のまちを共に創り上げるイベント事業です。本事業を通して、大学生たちは新たな仲間と出会うきっかけをつかみます。

延べ開催拠点

参加大学生数

1 市町村 20人

開催背景

どんな分野で挑戦・研究・熱中していたとしても、人は必ず、どこかの市町村の住民です。そしていま、私たちは「誰かがつくった市町村のアタリマエ」の中で生きている。もし、ゼロから自分たちの理想を組み込んだまちをつくったらどんなまちができるか？そんな議論を、異なる専門性を持つ同世代が募って行うことによって、新たな視点を獲得したり、改めて考えたい問いに出会う機会をつくることのできるはずと考え、「あたらしいまちづくり」をテーマにしたイベントを実施。

参加した大学生の所属大学

- 旭川医科大学
- 札幌大谷大学
- 札幌大学
- 天使大学
- 東北大学
- 新潟大学
- ニューヨーク市立大学
- 福島大学
- 藤女子大学
- 北海学園大学
- 北海道教育大学 釧路校
- 北海道教育大学 札幌校
- 北海道大学
- 立命館大学
- 早稲田大学



レゴで自分の理想のまちを表現して共有してみる



札幌で活躍する社会人と理想のまちについて語る



まちのイメージを具体化するためにチームで語りつくす



第1回POQで生まれたまち

参加者の声

自分以外の人と関わりを持って、さまざまな生き方、価値感に触れたいという一心で参加しました。まちづくりを通して、同世代の方々と本気でぶつかり合い、意見を出し合った二日間は、これ以上ない達成感と充実感を得られました。知り合い、友達ではなく「同じベクトルを持って集まった仲間」という感覚でした。今回できた縁をこれからも大事にしたいです。次に参加するときは、深い思考力と言語的瞬発力を鍛えた自分でリベンジしたいです💧



あしたの寺子屋のチーム体制



嶋本 勇介
代表取締役

北海道大学卒。デロイトトーマツコンサルティング合同会社で、大手企業の戦略策定・経営再建等に従事。



阿曾沼 陽登
執行役員（体験設計）

北海道の牧場にて酪農業、被災地での教育NPOでの活動を経て24歳で慶應義塾大学に入学。大学2年時にまちの飲食店を利用した中高生向け学び場の運営を始める。



久保 匠
執行役員（社会的イノベーター）

大学卒業後、福祉系NPO法人で、障害者支援に携わる。その後、日本ファンドレイジング協会に参画。2022年より独立し、ソーシャルビジネス向けの戦略策定・実行支援、ファンドレイジング支援、クロスセクター型事業創造等を推進。



大谷 真樹
Co-Founder

インフィニティ国際学院 学院長。1961年八戸市生まれ。NEC勤務を経て、株式会社インフォプラント（現株式会社マクロミル）を創業。



山田 佳介
執行役員（事業管理）

慶應義塾大学卒。デロイトトーマツコンサルティング合同会社では、まちづくりや地方創生をテーマに、地方公共団体における産業・人材育成・文化芸術等の案件に多数従事。



香田 光
執行役員（寺子屋サポート）

大手大学受験予備校にて10年超にわたり生徒指導を行う。文部科学省トビタテ！留学JAPAN プロジェクトチーム、キャリアアドバイザーを経て現職。カウンセリング実績は小中学生～大人まで累計10,000件以上。



船橋 力
Co-Founder

Asian Leaders Connecting Hub. CEO 兼 文部科学省 官民協働海外留学創出プロジェクトトビタテ！留学JAPAN プロジェクトディレクター。

あしたの寺子屋のパートナー

包括連携パートナー



教材/ツール提供



プログラム提供/共同開発



広報・メディア



LOCAL LETTER

プログラム拡大



資金調達



パートナーから受託し、実施した事業

- × (一財) 地域・教育魅力化プラットフォーム
- × 経済産業省

未来の教室事業

- 地域・学校内に閉じた学びでは、環境や選択肢が限定的になり、生徒一人ひとりの多様な学びのニーズに答えることは困難なため、学校・地域を越えて参加できるプログラムを構築することをテーマとした実証事業
- 複数の学校・地域から参加者を募った放課後授業（短期越境プログラム）を実施するにあたり、プログラム設計のマネジメント業務や効果検証業務を当社メンバー（山田）が務めた。（2021年度/2022年度）



- × (一財) 地域・教育魅力化プラットフォーム

R&D事業への伴走

- (一財) 地域・教育魅力化プラットフォームにおけるR&D事業における新規事業立ち上げや、既存事業の整理/強化に携わる。
- 上記事業を通して、高校魅力化や教育行政における有識者との協働を、当社代表の嶋本が務めた。

- × 株式会社ソフィア
- × 文部科学省

マイスター・ハイスクール事業

- 産業界等と一体となった専門高校改革を推進するとともに、地域産業の持続的な成長を牽引する最先端の職業人材を育成することを目的とし、専門高校に産業界からCEO/副校長として派遣する文部科学省の事業。
- 上記の事業を推進するにあたって、各指定校の困りごとのサポートをする役割として伴走者が設置されている。
- 当社代表の嶋本が、北海道静内農業高校の伴走者を務めた。



メディア掲載・講演/登壇実績

01 寺子屋 パートナー 事業

- 居住地越え学びの場 教育格差解消へ
オンライン活用 札幌発「寺子屋」
八雲に13校目」
(函館新聞/4月)
- 「地域おこし協力隊員×
株式会社あしたの寺子屋 学びの
居場所づくり～福岡県広川町の
取組～」(全国町村月報/5月)

03 ネット ワーキング 事業

- イベント甲子園優勝チーム取材
ー 新聞：北海道新聞/函館新聞
読売新聞
ー TV： NHK北海道/NCV
HBC「今日ドキ」/BSよしもと
- イベント甲子園準優勝チーム取材
ー 新聞：北海道新聞
ー 雑誌：エコチル(子ども環境情報誌)
- Picture Of 171Q当日取材：
「夢さぼトピック」(3月)
(北海道新聞)

05 講演/登壇 実績

(一部抜粋)

- 札幌市 まなびまくり社 サポーター (通年)
- 札幌市立藻岩高校 学び方概論
「自分らしい学びって？」講師 (4月)
- 峰子の部屋ライブ配信 (4月)
(株式会社日本コスモトピア 代表取締役社長)
- 文部科学省 第6回不登校支援
プロジェクトチーム会議 講師 (4月)
- Air-Gラジオ 岡三証券presents
STARS Social Change (5月)
- カラフル越境体験フェス 講師 (9月)
(パーソルプロセス&テクノロジー株式会社)
- Social Innovation X「北海道発
「教育×ローカル」の可能性について」登壇 (9月)
- NoMaps EDU supported by あしたの寺子屋
実行委員会 (10月)
- 令和4年度遠紋地区社会教育委員等
研修会講師 (北海道滝上町) (10月)
- EZO OPEN SCHOOL
(一財)えぞ財団開催 社員研修講師 (11月)
- D-School北海道アワード2022審査員(11月)
- Ezofrogs Leap Dayトークセッション登壇 (12月)
- SOYA未来プロジェクト SOYAカンファレンス
(宗谷教育推進局) (12月)
- ユース世代がソーシャルキャリアを考える (3月)
(札幌市市民活動サポートセンター
×NPO法人北海道NPOサポートセンター)

02 越境 プログラム 事業

(一部抜粋)

- 網走川流域 つながり感じよう
(美幌町/北海道新聞/7月)
- 学生と子供交流 将来を語り合う
南幌で「寺子屋」プログラム
(南幌町/北海道新聞/8月)
- 与論島でシャッフルキャンプ
3泊4日で都市部と地元の中高生が交流
(与論町/奄美群島南三島経済新聞/8月)
- 中高生の自習をサポートする
まなびの広場開催
(上士幌町/十勝毎日新聞/8月)
- 宿泊型「シャッフルキャンプ」
南部町で開催 (南部町/デーリー東北/9月)
- 「ニュースひもづけ」プレゼンカ
を学ぶ (十勝毎日新聞/2月)

04 コーポ レート

- あの起業家に会いたい (財界さっぽろ/4月)
- ゼブラ企業、日本で成長期
格差は正に資金集まる
(日経産業新聞 全国版/4月)
- 特集企画「TEAM EXPO2025 共創で
目指す理想の未来」
地域間教育格差を埋める
(月間事業構想/6月)
- 学会誌・都市計画360号「特集：ニュー
ノーマル時代の子育て環境に対応した
まちづくり」(1月)

2023年度のあしたの寺子屋

Mission 2023

パートナーとともに、一人でも多くの子どもたちに世界を広げる一歩目を届けきる。

01 寺子屋パートナー事業

- 世界を広げる一歩目を提供する手段を拡充しつつ、価値提供の方法の改善を図る
- 結果として、**40町村のパートナー**に。長期休暇以外での安定的なキャッシュポイントも寺子屋長とともに構築

02 越境プログラム事業

- あしてらキャンプ（新事業名：まなび場）・シャッフルキャンプ・あしてらワーケーションの展開地域を拡大をめざす。
 - まなび場 : R610拠点獲得
 - シャッフルキャンプ : 10回開催
 - ワーケーション : 2回開催

03 ネットワーキング事業

- イベント甲子園は、参加者を増大し、訴求力のある事業にすることで、次年度以降に向けたスポンサーの獲得を目指す。
 - 参加者数 : 200名
 - スポンサー : 100万円

04 コーポレート

- KPI・期限を明確化し、情報を透明化した経営管理体制を構築。
- Mission2023を反映した広報戦略の策定・実行
- 民間助成金・交付事業を中心に、様々な手段を掛け算したファンドレイジング